

# 百年後の未来へ標本を残していくために



## 博物館の窓

第94回

学芸員 持田 誠

この春から放映されているNHKの朝の連続テレビ小説「らんまん」の主人公は、日本を代表する植物分類学者、牧野富太郎がモデルとされています。

牧野は、日本の植物を詳しく調べるため、全国各地で植物採集をし、標本をつくりました。牧野の作製した植物標本は、多くが高知県立牧野植物園や、東京都立大学牧野標本館に収蔵されています。全国の博物館にも収蔵されていることがあります。残念ながら当館には牧野の標本はありません。

4月、釧路市立博物館を会場に、標本をテーマとしたシンポジウムが開催され、当館からも事例報告をおこないました。植物に限らず、昆虫や鳥、化石や岩石など、自然界のサンプルを「自然史標本」といいます。標本も大切な地域資料であり、また、科学の発展に寄与する研究材料でもあります。

百年後の未来へ標本を残し伝えていくための課題とはなにか？博物館は、他の多くの博物館や研究機関と連携して、取り組みを続けていきます。



釧路市立博物館で開催されたシンポジウム「標本は未来へのおくりもの：百年後に残す博物館の取り組み」の様子



日本野鳥の会十勝支部から寄贈されたハクガン幼鳥の剥製。2019年に豊北で採集された個体。